



平成 20 年 11 月 14 日

各 位

会 社 名 ラオックス株式会社  
代表者名 代表取締役社長 山下 巖  
(コード番号 8202 東 証 第 2 部)  
問 合 せ 先 執 行 役 員 古田光浩  
経 営 企 画 本 部 長  
(TEL 03-6859-3800)

業績予想の修正に関するお知らせ並びに経営改善計画に関するお知らせ

最近の業績の動向を踏まえて、平成 20 年 5 月 23 日に公表しました平成 21 年 3 月期通期業績予想を下記の通り修正いたしますので、お知らせいたします。また、業績予想を下方修正するとともに、下半期以降の「経営改善計画」を策定しましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 平成 21 年 3 月期通期業績予想の修正(平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)

(1) 連結業績予想

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表数値(A)	61,100	△900	△590	△550	△9.12
今回修正予想(B)	43,100	△4,750	△4,470	△5,370	△88.74
増減額(B-A)	△18,000	△3,850	△3,880	△4,820	—
増減率(%)	△29.5%	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成 20 年 3 月期)	58,981	△5,585	△5,189	△5,992	△88.26

(2) 個別業績予想

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表数値(A)	58,500	△640	△400	△430	△7.12
今回修正予想(B)	40,900	△3,530	△3,260	△4,940	△81.64
増減額(B-A)	△17,600	△2,890	△2,860	△4,510	—
増減率(%)	△30.0%	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成 20 年 3 月期)	56,094	△4,910	△4,574	△8,079	△118.99

## 2. 修正の理由

期首の経営計画を抜本的に見直し、連結対象子会社の株式会社庄子デンキ、ラオックスヒナタ株式会社の事業譲渡による営業停止により、両社の店舗全 19 店舗の閉鎖を実施いたしますが、早期に黒字化を果たすべく、ラオックス本体においても期首計画の 9 店舗に加えて、更に 13 店舗の不採算店舗の閉鎖を予定しております。また、店舗数の減少に伴い、本社及び物流の店舗サポート部門の圧縮による経費削減にも取り組んでまいりますが、通期の業績予想は、期首の計画を下回る見込であります。

## 3. 経営改善計画について

競争環境の激化、消費動向などから小売業にとっては厳しい状況が続くと予想されますため、当社グループは、グループ全体の経営計画の抜本的な見直しに着手、既に子会社 2 社の事業譲渡を推進しておりますが、親会社である当社も、早期黒字化に向けた改善計画を策定いたしましたので、お知らせいたします。

### (1) 計画の骨子

- ① 各事業毎の見直し
- ② 月次損益黒字化の実現（平成 21 年 3 月以降の月次損益の営業黒字化）
  - ・ 間接経費の大幅な削減
  - ・ 不採算店舗閉鎖と既存店舗の強化

### (2) 店舗政策

- ① 不採算店舗及び黒字化に時間を要する店舗の閉鎖（ラオックス本体）
  - ・ 今期閉鎖計画の 9 店舗に加えて 13 店舗の閉鎖を予定しております。計画店舗の内 7 店舗につきましては既に実施しており、現在 2 店舗が 12 月初旬の閉鎖に向けて閉店セールを実施しております。

	平成 20 年 3 月末(実績)	平成 20 年 9 月末(実績)	平成 21 年 3 月末(予定)
ラオックス単体	4 8	4 1	2 6
グループ合計	7 5	5 2	3 3

- ② 店舗閉鎖に伴う人員数の減少で店舗人件費 40%前後の削減を見込んでおります。  
一部人員につきましては営業力強化を図るために既存店舗へ異動いたします。
- ③ 営業店舗の家賃減額等の店舗運営経費全般の削減を図ります。
- ④ これにより不採算店舗が整理され、店舗損益黒字の店舗での営業体制となります。

### (3) 間接経費の抜本的削減

- ① 店舗数縮小に伴う抜本的な物流体制の見直し
  - ・ 物流情報システムの外注分は自社内運営に変更し、年間 216 百万円のコスト削減を実現しました。
  - ・ 物流センター機能、デポ（配送拠点）の拠点数及び配置などの物流体制全般に関する抜本的な見直しを行ってまいります。
- ② 本社部門のダウンサイジング並びに人員数削減
  - ・ 本社部門がサポートする店舗数の減少に合わせて、組織体制及び人員配置を見直し、本社機能の縮小を図り、間接人件費 50%程度の削減に取り組んでまいります。
- ③ 間接経費（平均 3 億円／月）を現在の 3 分の 1 に削減いたします。
- ④ 閉鎖店舗の空家賃の解消など営業外収益の改善に取り組みます。
- ⑤ 社内に専門プロジェクト（経営企画室主導）を発足させ短期間での実現のに向けて取り組んでまいります。

(4) 財務体質の改善

- ① 不稼働資産の売却により有利子負債を圧縮してまいります。
- ② 株式会社庄子デンキ及びラオックスヒナタ株式会社の事業譲渡を推進し、所有不動産の売却及び解約による保証金・敷金の早期回収を目指します。

(5) 業態別事業別の大幅な見直し

家電事業、秋葉原事業（デューティーフリー、アソビットシティ、MUSICVOX）、の見直しを図り経営効率の向上を図ります。

(6) 下期 個別業績予想（平成20年10月1日～平成21年3月31日）

（単位：百万円、％）

	第3四半期			第4四半期			下期計		
	前期実績	予想	増減率	前期実績	予想	増減率	前期実績	予想	増減率
売上高	15,292	<b>10,216</b>	△33.2%	11,490	<b>8,072</b>	△29.7%	26,782	<b>18,288</b>	△31.7%
売上総利益	2,252	<b>1,710</b>	△24.1%	1,764	<b>1,544</b>	△12.5%	4,017	<b>3,254</b>	△19.0%
販管費合計	3,299	<b>2,526</b>	△23.4%	3,157	<b>1,881</b>	△40.4%	6,456	<b>4,407</b>	△31.7%
営業利益	△1,046	<b>△816</b>	—	△1,392	<b>△337</b>	—	△2,439	<b>△1,151</b>	—
経常利益	△1,303	<b>△754</b>	—	△1,343	<b>△267</b>	—	△2,303	<b>△1,021</b>	—

○ 既存店売上高前年比は、9.7%増を見込んでおります。

上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。  
実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上